

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073100358		
法人名	株式会社 筑紫館		
事業所名	ライフケアホーム 春日苑		
所在地	福岡県春日市天神山6丁目22-23 (電話) 092-575-6677		
自己評価作成日	平成 23 年 4 月 27 日	評価結果確定日	平成 23 年 7 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者を第一に考え、家族の意見も取り入れ、個人の尊厳やプライバシーの尊重、地域社会に密着した適切な介護サービスを提供すること、日常生活の中では、職員全体で入居者個人の介護計画を作成し、自立や尊厳に努めている。また、職員の健康管理や働きやすい職場になるように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 23 年 5 月 12 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域密着の視点を重視し、事業所の行事を地域住民にも案内し、地域の行事には利用者が参加するなど地域社会と交流する関係が定着している。
また、利用者の個別性を尊重したケアに力を注ぐため、「家族と共に介護する」という理念を掲げ、家族が参加するケアの実践に取り組んでいる。理事長は職員の資格取得の推奨や段階的な教育体制を構築しており、管理者は職員の意見や要望を言いやすいように声かけし、働きやすい職場づくりを目指している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を苑内に掲示し、朝の申し送り時やカンファレンス時など全員で唱和し、理念を共有、確認しながら支援している。 地域に活かされていることを常に意識しながらケアをしている。	家族・地域・事業所が一体となって支援していくことを理念に掲げ、事業所内4ヶ所に掲示している。朝礼や月に1度のカンファレンスの際に全員で唱和し、理念の共有と実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理事長が敬老会に入会し事業所ぐるみで交流している。 町内の誕生会・夏祭り・クリスマス会等に参加させてもらっており、苑内の夏祭り、クリスマス会にも招待している。 又月に一度、敬老会から慰問としてカラオケを披露して頂いている。	町内会に加入し、事業所便りは年1、2回地域に回覧している。理事長が老人会に入会しており、事業所の開催する行事案内を地域住民へ行うと共に、地域行事に利用者が参加するなど、お互いに交流する関係作りが出来る。近隣の小学校の運動会へ出かけたり、積極的に交流を図っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理事長が公民館運営のサロン等で認知症の講演を行い、疑問や相談にのっている。 又、運営推進会議時にもちょっとした疑問などにはお答えする事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加者へ介護の取り組み状況等報告し、話し合いを行うことで少しでも理解していただけるようにしている。 又、カンファレンス時にスタッフへ報告を行い、情報の共有を行うようにしている。	運営推進会議は、2カ月に1回開催し、サービス利用状況や評価への取り組みを報告している。「夜間想定避難訓練や地域住民への参加依頼、事例発表会での入浴を拒否される利用者への対応」など会議で出た意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時や情報交換会などに市の担当者が参加されている。 又、家族や地域の住民からの質疑応答や意見交換もしている。市が主催する介護支援員研修への参加し保護課との連携、支援にまつわる日常的な相談など連携の機会を確保している。	日頃から市担当者で連絡を取り合い、お互いに相談できる関係を築き、質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内、外部研修を行い正しい知識を深め、身体拘束をしないケアの実践を行なっている。 又、日中は、玄関の鍵なども開放し開かれた苑づくりを行っている。その為見守りや声かけに重点を置き、御本人様の精神状況等観察するようにしている。	玄関・居室は施錠しておらず、職員は利用者の外出傾向など把握し、出て行く気配を見落とさないように付き添いや見守りを行っている。近所の人々が気軽に買い物帰りに立ち寄り、見守りや声かけをしてもらえる関係作りを築いている。一部の職員が外部研修を受講し、事業所内で伝達研修している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書などを保管している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の外部研修に参加、又研修に参加した職員が苑内研修で報告を行い、正しい知識の共有に努めている。 日頃より入居者の精神状態や行動の変化を注意深く観察している。 又入浴時、更衣時に身体状態の観察も行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師を招き、成年後見制度などの研修会を開催し、職員には制度の周知を図るように努めている。 また家族には状況に応じて説明を行うようにしている。	制度について利用者・家族には必要に応じて説明している。成年後見制度に関して、弁護士等外部講師を招いて講演を開催しており、全職員が内部研修で権利擁護について学ぶ機会を設けられている。テキストや研修記録等も保管している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かりやすい言葉で説明を行い、よく理解して頂くようにしている。また、一度持ち帰ってもらった後、分からないこと等は提出時に再度確認し合うように心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からは面会時に連絡ノートを通じて思いや意見を汲み取るように努めている。 意見箱の設置もしており、運営推進会議でも個人的にお話したりするが、あまり意見などは言われない事が多い。	日頃から連絡ノートを用い、事業所での様子を家族に報告すると共に、家族から意見や要望を聴く機会を設けている。そこでの意見や要望を行事や日頃の介護のあり方など運営に反映している。運営推進会議や意見箱への投書で、利用者・家族が意見や思いを述べる機会がある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にスタッフの意見や提案を聞いており、カンファレンス時に全スタッフとサービスマスターやケア内容を見直すなど取り組みに反映させる様にしている。	職員が日常的に運営に対する意見や提案、研修受講への希望等を言い易い環境をつくっている。今回の自己評価作成についても、前回評価表を職員で回覧の上、管理者がミーティングで職員意見を集約して作り上げている。誕生日会を月単位でなく、本人の誕生日に開催するなど、職員の気づきを運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の能力や意見、希望を把握し出来る限り、本人の条件に合うよう努めている。 又、労働時間の把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別、資格や経験の有無などによる制限は設けていない。本人の意欲や理念への共感、夜勤も含めて時間的、体力的に勤務が可能か否かを考慮し状況に応じて常勤、非常勤の枠（夜勤が出来ない等）で採用している。資格取得等の自己実現についても勤務ローテーションの調整を行うなどの支援体制がある。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所は「働きやすい職場環境」を目指しており、資格取得や取得後の昇給、職員のプライベートの充実などを注ぎ、職員はいきいきと働いている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止や成年後見制度、高齢者の権利擁護についての外部研修の受講および報告会などを実施している。	職員は人権に関する内部・外部研修を受講し、参加できなかった職員へ伝達研修を行っている。テキストや報告書等も保管している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内で勉強会を実施している。外部研修については情報を職員に周知し、希望を募ったり職員のスキルや経験年数に応じて振り分けるなど適切に参加の機会を確保している。受講後は研修報告会を実施し、新しい知識の導入や情報の共有への取り組みがある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	春日市の介護支援専門員情報交換会を通じて定期的な交流の機会を確保している。又、職員も自発的に他のホームへの見学や情報交換を行うなど質の向上に向けた取り組みがある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に関係者からの情報収集と可能な限り職員が寄り添い、入居者の思いや意向の把握をし、不安を軽減するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限りホーム見学やご家族同伴のお泊り体験などをお勧めし、安心納得の上入居の決定をなされるように配慮している。また、意見を頂いた時には御家族の想いなど充分に聞き取り、職員に情報を共有している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族と相談しながらなるべく馴染みの環境を整え、納得の上で入居していただいている。 又御本人様の状況は随時職員間で共有している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理方法を教えてもらったり一緒に料理の下ごしらえをしたり、洗濯干しや洗濯たたみなど出来る事は相互にねぎらいの言葉掛けをしながら一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時にご本人様から訴えが無いかなど、ご御家族様ともコミュニケーションを密にとり、気軽に相談していただける関係を築くようにスタッフ一同努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方など特に自治会の行事に参加し、昔馴染みの方とゆっくり話す機会を設けている。また、苑前駐車場で日向ぼっこやレクリエーションなどを行う際近隣の方が声をかけてくださったり、一緒に昔の歌を歌ってくださったりする事がある。	利用開始時、本人および家族等から、馴染みの人や場所についても確認している。 利用者の希望をもとに、自宅の庭を除草したり、隣人との会話を楽しんだり、知人に会いに行く等、これまでの良好な関係が継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の意向を大事にしながら必要に応じて職員が間に入り、楽しい雰囲気でお過ごせるように配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡をご家族と取り合い、苑との付き合いを継続している。 (手作りの作品を苑に飾って下さったり、福祉用具の寄付をして下さっている、又季節の野菜を持参して頂いている。)		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	契約時に関係者からの情報収集と入居者様との日々の関りを通して、思いや意向の把握に努めている。計画作成担当者が中心となり、毎月のカンファレンス時に職員が意見を出し合い、本人様の視点にたって検討し、情報の共有に努めている。	利用者一人ひとりの思いや希望を日々の会話の中から把握するようにしている。意思疎通が困難な利用者には家族からの聞き取りや利用者の表情等から気持ちを理解するように努めており、本人の気持ちに添えるように職員間でその都度話し合っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集、又日々の関りの中で個々の生活してきた環境や背景を重要視しながら日々の支援を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活ペースを大事にしつつ入居者様ご本人の残存能力を活かしながら援助している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心となりご本人の希望や家族の意向などをまとめ、主治医へ照会して原案を作成している。主治医の助言を得た上でカンファレンス時に職員全体で協議し、介護計画を作成している。又、職員全員で情報を共有している。	本人や家族の要望、主治医の意見を踏まえて全職員で話し合い、個別のプランを計画作成担当者が立案している。3ヶ月毎、または、状態変化があればその都度モニタリングを行い、介護計画の見直しを実施している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあれば、日勤者で相談の上状況に応じて管理者・ケアマネに報告相談し、変更事項は業務日報で申し送り引継ぎを行う。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々入居者様の体調、睡眠時間と配慮しながら臨機応変に対応していくように努めている。又、申し送りノートに確認の為、各自サインをする様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流として校区の行事参加のお誘いがあり、必ず交替で参加するようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に医療、受診などについて説明し、主治医の選択をしてもらっている。月一回の定期病院受診には同行し、体調の変動など綿密に連絡をとっている。又、受診に行くことが身体的、精神的に負担になる方は在宅療養支援診療所より往診をしてもらっている。毎週一回診察があるので細かな指導を受けている。	訪問診療を受けている利用者や入居前からのかかりつけ医に受診している利用者もおり、基本的に事業所の職員が通院介助をしている。利用開始時に家族と受診介助や情報伝達方法について話し合っており、随時、家族へ受診結果等の連絡も行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時入居者の体調変化には目を配っている。変化があればすぐに看護師である管理者に報告し、必要であれば皮膚科、眼科などの各医療機関を受診している。又歯科は訪問歯科を利用している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には病院との情報交換を密に行い、入院中は2、3日おきにお見舞いに向うようにしている。その際なるべく担当看護師より体調などお尋ねしている。又、退院後も御本人様、御家族様に安心して頂ける様に退院時のカンファレンスに必ず参加、引継ぎをしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化などについての意向を伺っている。事業所の方針と医療連携体制について説明し、同意を得るようにしているが、入居時にまだ実感がないと言われる御家族には入居者の心身の状況に応じ、主治医を含めた関係者で話し合いをし、情報・方針を共有しながら支援を行っている。また、今年度も看取り介護を行った。	重度化した場合や終末期のあり方について明文化されており、入居時に利用者や家族に説明している。利用者の状態に応じて、その都度家族や医師を含めた関係者で話し合い、情報や方針を共有したうえで支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しカンファレンスを基に話し合いを行っている。又個人の救急マニュアルも作成し、慌てずに対応できるようにした。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器を使った自主訓練は年に2回実施している。 また、ご家族や地域の敬老会、自治会などにも声かけし、参加協力していただいている。	消防署に連絡の上、地域住民や家族の参加を得て避難訓練や消火訓練を年2回実施している。非常用の備品も事業所内に備蓄されており、マニュアルも作成している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対しての言葉かけや対応には十分に注意を払っており、年長者としての尊厳を大切にしている。	内部研修やミーティング、日々のケアの中で職員間の意識向上に努めている。管理者は、家族に対して職員の対応等の苦情などはその場で職員に注意していただくように依頼している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がどうしたいのか、どんな希望なのか常に把握し、小さな事でも気づいて声かけを行うことによってご本人様が納得できる支援を行うように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活パターンがある為、なるべく個人に合わせた支援を行っている。 その為朝食などは個人に合わせた時間で対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から着用している物、こだわりの物などご家族に協力してもらい着用、または使用してもらっている。 洗面所にはいつでも使えるように櫛など置いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせて野菜の皮むきや食器拭き、味見など出来る限り入居者と一緒に行っている。 また、入居者と職員も一緒に食事をしながら食事の献立や味付けなども話し合っている。	近隣の住民から頂いた野菜などを使用し、下準備や味見など、できる限り利用者と一緒に調理している。利用者の要望や小学校や病院のメニューを参考に献立を決め、職員は利用者と同じ物を介助しながら一緒に食べている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量など確実に記入している。季節の物を取り入れて月間の献立作成を行い、栄養が偏らないように配慮している。又、個人の好みや好き嫌いなど細かく把握して対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さは声かけしている。又、スタッフが一人洗面所につき、個々にあった声かけ、介助を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の感覚を大切に定期的に排泄の声かけ誘導を行っている。なるべく失禁が無いように排泄パターンの把握に努めている。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており、さりげなく支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排泄の管理はしている。水分摂取を心掛け食物繊維の多い食材を摂取して頂くようにし便秘の予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴出来る様に対応して声かけしているが、お風呂嫌いの方も居り、時間をずらして再度声かけする等、なるべく個人の状況に合わせて入浴していただいている。	毎日入浴できる体制を取っており、夜間入浴の希望にも応じている。入浴拒否をされる利用者には、声かけのタイミングを工夫したり、散歩で気分を変えるなどして、入浴の支援を行っている。必要に応じて、シャワー浴や清拭等を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活習慣に合わせ無理に起こすことはしていない。又昼夜逆転が見られる入居者様に対しても日中無理に起きてもらうのではなく、如何に楽しんで起きていてもらえるのか取り組むようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変わった際は、必ず申し送りノートに記入し、口頭でも職員に引継ぎを行う。また、お薬の説明書をよく読んで用法用量の確認を行う。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の個性は様々でひとりひとりにあった楽しみ方に対応するように心掛けている（散歩、ドライブ、買物、編み物、テレビ観戦、カラオケなど）。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天時、気候の良い時は必ず、日光浴、散歩、ドライブ、買物など一緒に外出を楽しんでいる。又、入居者様の要望で外食に行く事もある。	ホーム外周や近隣の公園を散歩したり、季節毎の花見見物や外食、ドライブ等に出かけている。また、家族と一緒に外食や旅行などに出かけることができるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の認知症の方は金銭管理を苑で行っているが、買物時に自分で支払える方には職員と一緒に会計をしていただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳の不自由さもあって思うように会話が出来ない事もあるが、家族の理解を求め、いつでも本人様が電話出来る様に支援している。又、手紙を書かれる方は、急ぎで無ければお預りして面会時にお渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の様子を観察、確認しながら配慮している。	ソファや高床式の畳の間等があり、利用者が落ち着ける共用空間づくりをしている。壁に掛けられた数々の絵画は、退去された利用者の家族が定期的に入れ替えをしている。玄関先には季節の花がプランターに植えられ居心地よく過ごせる工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあったもの同士隣に座って話したり、又お互いの居室を訪問して話が弾むことある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスなどの調度品、写真やカレンダーなど御本人様のなじみの物を居室に準備していただき、なるべくご自宅と同じような環境を配慮している。	居室には、使い慣れた家具や調度品が置かれている。また、家族写真や飾り物等を自由に置くことができ、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者が、身体機能に応じた生活が出来る様にクッションなどの環境面にも工夫しており、身体の変化があれば、その都度検討し対応している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を苑内に掲示し、朝の申し送り時やカンファレンス時など全員で唱和し、理念を共有、確認しながら支援している。地域に活かされていることを常に意識しながらケアをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理事長がさわやか天神会（敬老会）に入会し事業所ぐるみで交流している。町内の誕生会・夏祭り・クリスマス会等に参加させてもらっており、苑内の夏祭り、クリスマス会にも招待している。又月に一度、さわやか天神会から慰問としてカラオケを披露して頂いている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理事長が公民館運営のサロン等で認知症の講演を行い、疑問や相談にのっている。又、運営推進会議時にもちょっとした疑問などにはお答えする事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加者へ介護の取り組み状況等報告し、話し合いを行うことで少しでも理解していただけるようにしている。又、カンファレンス時にスタッフへ報告を行い、情報の共有を行うようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時や情報交換会などに市の担当者が参加されている。又家族や地域の住民からの質疑応答や意見交換もしている。市が主催する介護支援員研修への参加し保護課との連携、支援にまつわる日常的な相談など連携の機会を確保している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内、外部研修を行い正しい知識を深め、身体拘束をしないケアの実践を行なっている。又、日中は、玄関の鍵なども開放し開かれた苑づくりを行っている。その為見守りや声かけに重点を置き、御本人様の精神状況等観察するようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の外部研修に参加、又研修に参加した職員が苑内研修で報告を行い、正しい知識の共有に努めている。日頃より入居者の精神状態や行動の変化を注意深く観察している。又入浴時、更衣時に身体状態の観察も行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師を招き、成年後見制度などの研修会を開催し、職員には制度の周知を図るように努めている。また家族には状況に応じて説明を行うようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かりやすい言葉で説明を行い、よく理解して頂くようにしている。また、一度持ち帰ってもらった後、分からないこと等は提出時に再度確認し合うように心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からは面会時に連絡ノートを通じて思いや意見を汲み取るように努めている。意見箱の設置もしており、運営推進会議でも個人的にお話したりする。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にスタッフの意見や提案を聞いておりカンファレンス時に全スタッフとサービス、ケア内容を見直すなど取り組むに反映させる様にしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の能力や意見、希望を把握し出来る限り、本人の条件に合うよう努めている。又、労働時間の把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別、資格や経験の有無などによる制限は設けていない。本人の意欲や理念への共感、夜勤も含めて時間的、体力的に勤務が可能か否か等を考慮し状況に応じて常勤、非常勤の枠（夜勤が出来ない等）で採用している。資格取得や自己実現などについても勤務ローテーションの調整を行うなどの支援体制がある。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止や成年後見制度、高齢者の権利擁護についての外部研修の受講および報告会などを実施している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内で勉強会を実施している。外部研修については情報を職員に周知し、希望を募ったり職員のスキルや経験年数に応じて振り分けるなど適切に参加の機会を確保している。受講後は研修報告会を実施し新しい知識の導入や情報の共有への取り組みがある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	春日市の介護支援専門員情報交換会を通じて定期的な交流の機会を確保している。又、職員も自発的に他のホームへの見学や情報交換を行うなど質の向上に向けた取り組みがある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に関係者からの情報収集と可能な限り職員が寄り添い、入居者の思いや意向の把握をし、不安を軽減するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限りホーム見学、又、ご家族同伴のお泊り体験などをお勧めし、安心納得の上入居の決定をなされるように配慮している。また、意見を頂いた時には御家族の想いなど十分に聞き取りし職員に情報を共有する。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族と相談しながらなるべく馴染みの環境を整え、納得の上で入居していただく。又御本人様の状況は随時職員間で共有していく。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理方法を教えてもらったり一緒に料理の下ごしらえをしたり、洗濯干し、たたみなど出来る事は相互にねぎらいの言葉掛けをしながら一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時にご本人様からの訴えなどが無い御家族様ともコミュニケーションを密にとり、気軽に相談していただける関係を築くようにスタッフ一同努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方など特に自治会の行事に参加し昔馴染みの方とゆっくり話す機会を設けている。また、苑前駐車場で日向ぼっこやレクリエーションなどを行う際近隣の方が声をかけてくださったり、一緒に昔の歌を歌ってくださったりする事がある。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の意向を大事にしながら必要に応じて職員が間に入り、楽しい雰囲気でご過ごせるように配慮している。また、3姉妹で入居されている方がいらっしゃるのので、話をしやすい環境を提供している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡をご家族と取り合い、苑との付き合いを継続している。 (手作りの作品を苑に飾って下さったり、福祉用具の寄付をして下さっている、又季節の野菜を持参して頂いている。)		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	契約時に関係者からの情報収集と入居者様との日々の関りを通して、思いや意向の把握に努めている。計画作成担当者が中心となり毎月のカンファレンス時に職員が意見を出し合い、本人様の視点にたって検討し、情報の共有に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集、又日々の関りの中で個々の生活してきた環境や背景を重要視しながら日々の支援を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活ペースを大事にしつつ入居者様ご本人の残存能力を把握した上でその力を活かしながら援助している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心となりご本人の希望や家族の意向などをまとめ主治医への照会を実施し原案を作成している。主治医の助言を得た上でカンファレンス時に職員全体で協議し介護計画を作成している。又、職員全員で情報を共有している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあれば、日勤者で相談の上状況に応じて管理者・ケアマネに報告相談し、変更事項は業務日報で申し送り引継ぎを行う。又日々の様子やケアの実践結果は個人ファイルに記録している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々入居者様の体調、睡眠時間と配慮しながら臨機応変に対応していくように努めている。又申し送りノートに確認の為各自サインをする様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流として校区の行事参加のお誘いがあり必ず交替で参加するようにしている。 又、行事参加する事により入居者の笑顔などが出ているように感じる。 火災や災害時には近隣住民に協力を依頼しており、防火訓練などにも参加してもらっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に医療、受診などについて説明し主治医の選択をしてもらっている。 月一回の定期病院受診には同行し、体調の変動など綿密な連絡をとっている。 又、受診に行くことが身体的、精神的に負担になる方は在宅療養支援診療所より往診してもらい、生活する中で診察してもらっている。毎週一回診察があるので細かな指導を受けている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時入居者の体調変化には目を配っている。 変化があればすぐに看護師である管理者に報告、必要であれば皮膚科、眼科などの各医療機関を受診している。又歯科は訪問歯科を利用している。 在宅療養支援診療所のひのでクリニック、看護師とも連携をとってケアにあたっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には病院との情報交換を密に行い、入院中は2～3日おきにお見舞いに向うようにしている。その際なるべく担当看護師に体調などお尋ねしている。又、退院後も御本人様、御家族様に安心して頂ける様に退院時のカンファレンスに必ず参加、引継ぎをしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化などについての意向を伺っている。事業所の方針と医療連携体制について説明し、同意を得るようにしているが、入居時にまだ実感がないと言われる御家族には入居者の心身の状況に応じ主治医を含めた関係者で話し合いをし情報・方針を共有しながら支援を行っている。また今年度も看取り介護を行った。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しカンファレンスを基に話し合いを行っている。 又個人の救急マニュアルも作成し、慌てずに対応できるようにした。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器を使った自主訓練は年に2回実施している。 またご家族や地域の敬老会、自治会などにも声かけし参加協力していただいている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対しての言葉かけや対応には十分に注意を払っており年長者としての尊厳を大切にしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がどうしたいのか、どんな希望なのか常に把握し小さな事でも気づいて声かけを行うことによってご本人様が納得できる支援を行うように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活パターンがある為、なるべく個人に合わせた支援を行っている。 その為朝食などは個人に合わせた時間で対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から着用している物、こだわりの物などご家族に協力してもらい着用、または使用してもらっている。 洗面所にはいつでも使えるように櫛など置いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせて野菜の皮むきや食器拭き、味見など出来る限り入居者と一緒に行っている。 また入居者と職員も一緒に食事をしながら食事の献立や味付けなども話し合っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や、水分摂取量など確実に記入している。月間の献立作成を行い季節の物を取り入れ栄養が偏らないように配慮している。又個人の好みや好き嫌いなど細かく把握しており対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さは声かけしている。又スタッフが一人洗面所につき、個々にあった声かけ、介助を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の感覚を大切に定期的な排泄の声かけ誘導を行っている。なるべく失禁が無いように排泄パターンの把握に努めている。又毎日体操を行いしっかりと腸が動くように働きかけている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排泄の管理はしている。水分摂取を心掛け食物繊維の多い食材を摂取して頂くように便秘の予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴出来る様に対応して声かけしているが、お風呂嫌いの方も居り、時間をずらして再度声かけする等し、なるべく個人の状況に合わせて入浴していただいている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活習慣に合わせ無理に起こすことはしていない。又昼夜逆転が見られる入居者様に対しても日中無理やり起こしておくのではなく、如何に楽しんで起きていてもらえるのか取り組むようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変わった際は、必ず申し送りノートに記入し、口頭でも職員にも引継ぎを行う。 また、お薬の説明書をよく読んで用法用量の確認を行う。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の個性は様々で一人ひとりにあった楽しみ方に対応するように心掛けている。 （散歩、ドライブ、買物。又編み物、テレビ観戦、カラオケなど）		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天時、気候の良い時は必ず、日光浴、散歩、ドライブ、買物など一緒に外出を楽しんでいる。又入居者の要望で外食に行く事もある。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の重い方の金銭管理は苑で行っているが、買物で自分で支払える方には職員と一緒に会計をしていただく事もある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳の不自由さもあって思うように会話が出来ない事もあるが家族の理解を求めいつでも本人様が電話出来る様に支援している。又手紙を書かれる方は急ぎで無ければお預りして面会時にお渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の様子を観察、確認しながら配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあったもの同士隣に座って話したり、又お互いの居室を訪問して話が弾むことある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様のなじみの物を居室に準備していただきなるべくご自宅と同じような環境を配慮している。（タンスなどの調度品、写真やカレンダーなど）		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にあわせた身体機能に応じた生活が出来る様にクッションや足載せなども工夫しており身体の変化があればその都度検討し対応している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない